

## 監理団体が行う入国後講習の標準的な日本語学習プログラム

当該プログラムは、監理団体が介護職種の技能実習生の入国後講習を行う際に、日本語学習についての教育プログラムとしてご参考にしていただくものとして作成しています<sup>※1</sup>。

入国後講習における日本語学習の進め方について法令に規定されている事項はありませんが、日本語学習の時間や科目、教育に含むべき内容、講師の要件等が規定されていますので、規定<sup>※2</sup>に沿って講習を実施してください。

※1 本資料は、厚生労働省生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業（平成28年度・公益社団法人国際厚生事業団）により開発された標準プログラムを参考にして作成したものです。

### ※2（関係法令）

- 外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律（平成28年法律第89号。以下「法」という。）
- 外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律施行規則（平成28年法務省・厚生労働省令第3号。以下「規則」という。）
- 介護職種について外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律施行規則に規定する特定の職種及び作業に特有の事情に鑑みて事業所管大臣が定める基準等（平成29年厚生労働省告示第320号。以下「告示」という。）
- 「介護職種について外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律施行規則に規定する特定の職種及び作業に特有の事情に鑑みて事業所管大臣が定める基準等」について（平成29年9月29日社援発0929第4号・老発0929第2号。以下「解釈通知」という。）

## 監理団体が行う入国後講習の標準的な日本語学習プログラム

### 1. 目標

実習生の日本語能力及び日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施機関での研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とする。日本語習得状況から実習生を「N3 取得者」「N4 上位者」「N4 下位者」の3レベルに分け研修を行う。それぞれのレベルの日本語研修の到達目標は次のとおりとする。

#### 1.1 「N3 取得者」向けプログラム目標

(1) **1 か月目**：【ブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】

- ・実習実施機関での仕事上の日本語でのやり取りに慣れ、自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。
- ・特定の職業（介護等に関わる職種）の人とのやりとりがある程度できる。

**2 か月目**：【実力養成期】

- ・自身の考えを聞き手にとって分かりやすく、段落の意識をもって発話することができる。
- ・日常生活及び基本的な仕事における円滑なコミュニケーション力を身につける。

(2) 日本での生活に関する情報の理解

(3) 日本の文化・社会に対する基本的理解

#### 1.2 「N4 上位者」向けプログラム目標

(1) **1 か月目**：【初級日本語のブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】

- ・相手の質問に対して、正しく返答できる。
- ・待遇関係を意識して話することができる。

**2 か月目**：【実力養成期】

- ・自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる。
- ・特定の職業（介護等に関わる職種）の人とのやりとりがある程度できる。

(2) 日本での生活に関する情報の理解

(3) 日本の文化・社会に対する基本的理解

#### 1.3 「N4 下位者」向けプログラム目標

(1) **1 か月目**：【初級日本語のブラッシュアップ（復習を兼ねた日本語力の向上）期】

- ・相手の質問に対して、正しく返答できる。
- ・日常生活における基本的なコミュニケーション力を習得する。

**2 か月目**：【実力養成期】

- ・待遇関係を意識して話すことができる。
- ・初級日本語の総合的な運用力を高める。

(2) 日本での生活に関する情報の理解

(3) 日本の文化・社会に対する基本的理解

## 2. 日本語教育担当者

(1) 外国人に対する日本語研修に関して十分な経験のある日本語教師が担当することが望ましい。

(2) 各クラスに担任を配置することが望ましい。

(3) 通訳を配置することが望ましい。

(4) 研修全体を統括し進捗管理を行う者としてコースデザイナー（日本語学習運営責任者）を配置することが望ましい。

(5) 入国後講習期間中は、監理団体と、コースデザイナー（日本語学習運営責任者）、日本語教師が連携しながら、研修を進める。

※3 入国後講習における日本語科目の講義を行う者の要件が規定されていることに留意。

※3 【告示第1条第二項のニ及び解釈通知第一の一項2の② 抜粋】

入国後講習の日本語科目を担当する講師は以下のいずれかを満たす者であること。

- 学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく大学（短期大学を除く。）又は大学院において日本語教育に関する課程を修めて当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者
- 学校教育法に基づく大学（短期大学を除く。）又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を26単位以上修得して当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者
- 公益財団法人日本国際教育支援協会（昭和32年3月1日に財団法人日本国際教育協会として設立された法人をいう。）が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者
- 学士の学位を有する者であって、日本語教育に関する研修で相当と認められるもの（420単位時間（1単位時間は45分以上とする。）以上の課程を有するものに限る。）を修了した者
- 学校教育法に基づく大学（短期大学を除く。）又は大学院に相当する海外の大学又は大学院において日本語教育に関する課程を修めて当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者
- 学士の学位を有する者であって、技能実習計画の認定の申請の日から遡り3年以内の日において出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令の留学の在留資格に係る基準の規定に基づき日本語教育機関等を定める件（平成2年法務省告示第145号）別表第1、別表第2及び別表第3に掲げる日本語教育機関で日本語教員として1年以上従事した経験を有し、かつ、現に当該日本語教育機関の日本語教員の職を離れていない者

※ 入国前講習の日本語科目を担当する講師の要件は、上記6項目に以下の項目を追加する。

- 海外の大学を卒業又は海外の大学院の課程を修了した者であって、技能実習計画の認定の申請の日から遡り3年以内の日において外国における日本語教育機関で日本語教員として1年以上従事した経験を有し、かつ、現に日本語教員の職を離れていない者

### 3. 教材の準備

- (1) 科目ごとに適切な教材を使用する。
- (2) 実習生一人一人に教材を配付し、自己学習を可能にする。

### 4. 日本語レベルチェック及びクラス編成

- (1) 来日後、筆記のレベルチェックを行い、実力を判断する評価を行う。  
※ 筆記のレベルチェックは、N3レベルの模擬テスト等を使用する。
- (2) 同様に、口頭レベルチェックを行い、実力を判断する評価を行う。
- (3) 上記レベルチェックをクラス編成の参考とする。
- (4) レベルチェックは、日本語研修に関して十分な経験のあるコースデザイナー（日本語学習運営責任者）が担当する。

### 5. クラス編成

- (1) 語学学習につき1クラスは20名以下が望ましい。
- (2) カリキュラム運営上、研修中のクラス編成は、基本的に固定とする。ただし、レベルによっては、講習を開始した後でも、必要に応じてクラスの再編成を検討する。

### 6. 研修オリエンテーション実施

授業に先立って、下記の内容のオリエンテーションを実施する。

- ・生活オリエンテーション
- ・日本語学習オリエンテーション
- ・自律学習オリエンテーション

### 7. 講習の概要

#### (1) 教授法

基本的に、日本語直接法により実施する。なお、実習生の日本語能力に応じて、日本の生活や、文化、習慣、専門的な介護に関する話題や用語等を用いた研修内容も採り入れる。必要があれば、通訳者も適宜利用する。

#### (2) 出欠確認・報告

実習生の出欠については、各クラスの講師が確認し、欠席者等がいる場合には担任あるいは、コースデザイナー（日本語学習運営責任者）に報告し、管理する。

#### (3) 自律学習の薦め

- ・自律学習ツールを用いて、自ら計画を立て、実行し、振り返り、再計画をたてる能力を養う。

※「にほんごをまなぼう～介護の技能実習生のための日本語自律学習～」厚生労働省補助金事業 平成 29 年度介護職種の技能実習生の日本語学習等支援事業)

- ・例えば、金曜日の8限目に自律学習時間を設ける等、1週間の学習の振り返りを行い、翌週の学習目標設定と学習計画の立案を行う。

#### (4) テスト

- ・毎週、習熟度を確認するテスト（アチーブメントテスト。以下、アチーブ。）を行い、自らの習熟度を確認し、自習の学習継計画の立案のための材料とする。
- ・科目ごとに中間テストおよび期末テストを行い、定期的に到達度を測る。（テストの頻度は科目ごとに異なってもよい）
- ・研修終了時には、N3レベルの模擬試験を行い、研修開始当初の能力との比較を行う。模擬試験は、N3レベルの模擬テスト等を使用する。研修開始時同様に、口頭によるテストも実施することが望ましい。
- ・テスト結果は、監理団体等、必要な関係者と共有する。

#### (5) 評価

基本的に語学学習につき、絶対的評価（クラスメートと比較せず、実習生自身の能力）で判断する。診断時期により、以下を用いる。

- ・研修開始時：実力を評価
- ・研修途中：学習した範囲が、目標に達しているか評価
- ・研修修了時：実力を評価

#### (6) 科目

総合日本語、聴解、読解、文字、介護の日本語、発音、会話、作文を行う。

※4 入国後講習における日本語科目の要件が規定されていることに留意。

#### ※4 【解釈通知第一項一2（1）① 抜粋】

- 入国後講習の日本語科目については以下の項目を教育内容に含めること。
  - ・総合日本語：①文法（文の文法、文章の文法）、②語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）、③待遇表現、④発音、⑤正確な聞き取り、⑥話題に即した文作成
  - ・聴解：①発話表現、②即時応答、③課題理解、④ポイント理解、⑤概要理解
  - ・読解：①内容理解、②情報検索
  - ・文字：①漢字読み、②表記
  - ・発音：①拍、②アクセント、③イントネーション
  - ・会話：①場面に対応した表現、②文末表現
  - ・作文：①文章構成、②表現方法
  - ・介護の日本語：①からだの部位等の語彙、②介護の場面に応じた語彙・声かけ

#### (7) 時間割・学習時間数等

※5 入国後講習における日本語科目の時間が規定されていることに留意。

以下に、時間割の例及び学習時間数の例を示す。

○ 時間割 (例)

	時間	月	火	水	木	金	
午前	1	50分	発音 ・ 文字				
	2	50分	聴解	読解	聴解	読解	聴解
	3	50分	総合日本語				
	4	50分	総合日本語				
午後	5	50分	介護の日本語				
	6	50分	会話				介護
	7	50分	総合日本語				作文
	8	50分	自律学習				

※金曜日4時限目の「確認テスト」は、「総合日本語」で学習した内容から出題する。

○ 学習時間数例 (計240時間)

日本語	介護の日本語
日) 50分×6コマ=300分=5時間	日) 50分
週) 5時間×5日=25時間	週) 50分×6コマ=300分=5時間
月) 25時間×4週間=100時間	月) 5時間×4週間=20時間
2か月) 200時間	2か月) 40時間

※5 【告示第1条第二項、別表第1・別表第2及び解釈通知第一第一項2(3)抜粋】

○ 教育内容ごとの時間数を標準として講義が行われる必要がある

※ 表に示している時間数は、講習全体の時間数の内、日本語科目として実施する講習の時間数であることに留意。

※ 入国前講習として認められる日本語科目の合計時間数は、入国時N4程度の場合は120時間、N3程度の場合は40時間が上限であることに留意。

教育内容	時間数	
	入国時N4程度の場合	入国時N3程度の場合
総合日本語	100	規定なし
聴解	20	規定なし
読解	13	規定なし
文字	27	規定なし
発音	7	7
会話	27	27
作文	6	6
介護の日本語	40	40
合計	240	80

## 8. 研修に関する報告

各実習生の科目別の評価、受講態度、レベルチェックテストの結果などについて担任講師のコメントを含め、入国後講習後速やかに作成する。作成された報告書は関係部署に送付する。報告書については、実習生の研修開始時点の状況と対比させたうえで、今後の課題も記載し、今後の日本語学習に活用できるように配慮することが望ましい。

報告書様式は、別添資料を参照されたい。

## 9. 科目ごとの教育内容の概要

各レベルに応じた標準的な学習プログラムを次に示す。

## 9-1. 「N3 取得者」 向けプログラム

### 1) 総合日本語

○目標：

#### 1 か月目

- ・ 中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。
- ・ 初級文型の復習と整理を行い、運用力を伴った定着をはかる。

#### 2 か月目

- ・ より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。
- ・ 一般的话题について相手を意識した意見が述べられる。

※ 上記目標に到達するために、四技能（読む、聞く、書く、話す）の総合的な伸長を目指す教材を選定するのが望ましい。

○進め方（例）：

1. 取り扱う教育内容のテーマに関する質問をし、学習者の関心を高める。
2. 本文を読む。（講師が本文を音読する。実習生には、「文章を目で追う」「分からない言葉に線を引く」「意味の切れ目に線を引く」ように指示を与えておくとい。）
3. 本文の大意取り（大まかな内容理解）の質問をする。
4. 本文中の文型や語彙を学習する。
5. 本文の精読（細かい内容理解）の質問をする。
6. 本文の要約をする。
7. 取り扱う内容のテーマについての表出活動（ディスカッションや意見述べる等）を行う。
8. 学習内容を復習するために、毎日宿題を課す等の工夫を行う。

○評価：

宿題提出：10%、週アチーブ：30%、学期末テスト：50%、平常点 10%

※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断するとよい。

### 2) 聴解

○目標：ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。

○進め方（例）：

1. 聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. 聴解にあたって、未知であると困難だと考えられる必要最低限の語彙を指導する。
3. 聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。



4. 音声教材等を活用した聴解。聴解に慣れないうちは、複数回聞かせてもよい。その際は、「1 回目は大意をとる」、「2 回目は問題文に合わせて細かい内容にまで注意して聞く」というように聞く目的を明示して聴解を実施するとよい。
5. 答え合わせを行う。
6. 聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価： 学期末テスト：90%、平常点：10%

### 3) 読解

○目標：まとまった文章を最後まで読み、内容を正しく把握する。

○進め方（例）：

1. 内容に関する話題を導入として提供し、学習者の関心を高める。
2. 読解にあたって、未知であると困難だと考えられる必要最低限の語彙や表現を指導する。
3. 読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）
4. 講師による模範音読（または、実習生を個別に指名し音読させてもよい）
5. 答え合わせ
6. 読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

### 4) 文字

○目標：N2 レベルの漢字の読み書きができるようになる。

○進め方（例）：

1 日当たり 6 文字程度の学習ペースが望ましい。

1. 前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
2. 学習する漢字に関連した話題を提供する。
3. それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
4. 必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50%、学期末テスト：50%

### 5) 介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○進め方（例）：

教材例<sup>\*6</sup>を用いて学習する。

1. 場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
2. ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できることと正しく聞き取りができるようになることを目指す。
3. 例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
4. 運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話練習を行う。
5. 確認テスト：時限毎に学習内容が理解できているかを小テスト（5分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

※6 教材例：「介護の日本語」のテキスト（厚生労働省補助金事業「平成29年度介護職種の技能実習生の日本語等学習支援事業」公益社団法人日本介護福祉士会）

## 6) 発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

※ 「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。講習の初期段階でこの2点の練習を繰り返し行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。

なお、発音練習は、1回の時間を長くして短期間で行うよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことが効果的であるため、入国後講習においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回10分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○ 授業内容：

**1か月目**：拍、アクセントの練習

- 目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。
- 進め方（例）：
  1. 音声を聞き取る。
  2. 聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを入力する。
  3. 教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。
  4. 声に出して練習する。

**2か月目**：シャドーイング

○ 目標：

- ・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ）、イントネーションを習得する。
- ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

○ 進め方（例）：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握（内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 *練習方法：シンクロ・リーディング <sub>(2)</sub> 、サイレント・シャドーイング
2・3回目	CDを流して練習 *練習方法：スクリプト付シャドーイング、マンブリング、 プロソディー・シャドーイング
4回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング

< 2回目の練習方法 >

クラスを二つに分けて、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。  
次に、役割を交替して練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（3回ほど）
- ②マンブリング（2回ほど）
- ③プロソディー・シャドーイング（2回ほど）

※回数を目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※2回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

< 3回目の練習方法 >

クラスを二つにわけて、片方を「A 役」、もう片方を「B 役」として練習。  
次に、役割を交替して練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（2回ほど）
- ②プロソディー・シャドーイング（4回ほど）

※回数を目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※3回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

## 【用語の説明】

### （1）意味の把握

配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

### （2）シンクロ・リーディング

スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞く

ことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

(3) サイレント・シャドーイング

音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。

(スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習することに適した練習法)

(4) スクリプト付きシャドーイング

スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と行って行う。

(5) マンブリング

スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

(6) プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで、音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかななくてもよい。

(7) コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ないで、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

## 7) 会話

○目標：人間関係や場面に対応した表現や、文末表現、効果的な相槌を用いて会話が展開できる。

○進め方（例）：

1. 学習する会話の話題に合わせて、学習者とやり取りをし、経験を引き出す。
2. 会話の役割を記載したロールカードを実習生に渡し、ロールプレイを実施する。
3. よりよい会話とするために必要な語彙や表現を導入し、運用力を高める。
4. 再度、場面や状況に合わせたロールプレイを実施し、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60%、平常点：40%

## 8) 作文

○目標：

- ・中級文型を使って、自分の意図を表現することができる。

・書き言葉（である体）で、意見文が書ける。

○進め方（例）：

1. 作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。
3. 作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。
4. 作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）
5. 作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うときは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等）」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

## 9-2. 「N4 上位者」向けプログラム

### 1) 総合日本語

○目標：

#### 1 か月目

- ・日常生活をより円滑にするための語彙、表現力を拡大する。
- ・「話し言葉」と「書き言葉」の使い分けを知り、適切に使用することの意識付けを行う。
- ・中級学習へスムーズに移行するための基礎を固める。
- ・テーマについて簡単に意見が述べられるようになる。

#### 2 か月目

- ・より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。
- ・一般的话题について相手を意識した意見が述べられるようになる。

※ 上記目標に到達するために、初級終了後の学習者が無理なく中級の学習に移行することを目指した『ブリッジ型教材』を用いて、四技能（読む、聞く、書く、話す）の総合的な伸長を図る教材を選定するのが望ましい。

○進め方（例）：

- ・学習内容を復習するために、毎日宿題を課すことが望ましい。
  1. 取り扱う教育内容のテーマに関する質問をし、学習者の関心を高める。
  2. 本文を読解するのに必要な語彙や表現を指導する。
  3. 本文を読む。（講師が本文を音読する。実習生には、「文章を目で追う」「分からない言葉に線を引く」「意味の切れ目に線を引く」ように指示を与えておくとよい。）
  4. 本文の大意取り（大まかな内容理解）の質問をする。（文章の長さに応じて、段落ごとに行ってもよい。）
  5. 本文中の文型や語彙を学習する。
  6. 本文の精読（細かい内容理解）の質問をする。
  7. 本文の要約をする。
  8. 取り扱う内容のテーマについての表出活動（ディスカッションや意見述べ等）を行う。

○評価：

宿題提出：10%、週アチーブ：30%、学期末テスト：50%、平常点：10%  
※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断する

### 2) 聴解

○目標：

- ・日本語教師以外の発話に慣れる。

- ・ある程度の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。

○進め方（例）：

1. 聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. 聴解にあたって、未知であると困難だと考えられる語彙を指導する。
3. 聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。
4. 音声教材等を活用した聴解（聴解に慣れないうちは、複数回聞かせてもよい。その際は、「1回目は大意をとる」、「2回目は問題文に合わせて細かい内容にまで注意して聞く」というように聞く目的を明示して聴解を実施するとよい。）
5. 答え合わせ
6. 聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

### 3) 読解

○目標：多様な種類の文章を読み、中級レベルの読解力の養成のための基礎力をつける。

○進め方（例）：

1. 内容に関する話題を導入として提供し、学習者の関心を高める。
2. 読解にあたって、未知であると困難だと考えられる語彙や表現を指導する。
3. 読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）
4. 講師による模範音読（または、実習生を個別に指名し音読させてもよい）
5. 答え合わせを行う。
6. 読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

### 4) 文字

○目標：N3 レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。

○進め方（例）：

1 日当たり 4 文字程度の学習ペースが望ましい。

1. 前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
2. 学習する漢字に関連した話題を提供する。
3. それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
4. 必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50%、学期末テスト：50%

### 5) 介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことは覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○進め方（例）：

教材例<sup>※6</sup>を用いて、1日当たり5～10個程度のことばを学習する。

1. 場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
2. ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できると正しく聞き取りができるようになることを目指す。
3. 例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
4. 運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話練習を行う。
5. 確認テスト：時限毎に学習内容が理解できているかを小テスト（5分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

※6 教材例：「介護の日本語」のテキスト（厚生労働省補助金事業「平成29年度介護職種の技能実習生の日本語等学習支援事業」公益社団法人日本介護福祉士会）

## 6) 発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

※「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。講習の初期段階でこの2点の練習を繰り返すを行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。なお、発音練習は、1回の時間を長くして短期間で行うよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことが効果的であるため、入国後講習においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回10分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○授業内容：

**1か月目**：拍、アクセントの練習

目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。

進め方（例）：

1. 音声を聞き取る。
2. 聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを入力する。
3. 教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。



4. 声に出して練習する。

2か月目：シャドーイング

目標：

- ・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ）、イントネーションを習得する。
- ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

進め方（例）：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握（内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 *練習方法：シンクロ・リーディング、サイレント・シャドーイング
2・3回目	CDを流して練習 *練習方法：スクリプト付シャドーイング、マンブリング、プロソディー・シャドーイング
4回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング

< 2回目の練習方法 >

クラスを二つにわけ、片方を「A役」、もう片方を「B役」として練習。

→ 次に、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（3回ほど）
- ②マンブリング（2回ほど）
- ③プロソディー・シャドーイング（2回ほど）

※ 回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※ 2回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

< 3回目の練習方法 >

クラスを二つにわけ、片方を「A役」、もう片方を「B役」として練習。

→ 次に、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（2回ほど）
- ②プロソディー・シャドーイング（4回ほど）

※ 回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※ 3回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

【注意点・用語説明】

### (1) 意味の把握

配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

### (2) シンクロ・リーディング

スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞くことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

### (3) サイレント・シャドーイング

音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。

(スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習することに適した練習法)

### (4) スクリプト付きシャドーイング

スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と行って行う。

### (5) マンブリング

スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

### (6) プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。

同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかななくてもよい。

### (7) コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ずに、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

## 7) 会話

○目標：人間関係や場面に対応した表現を用いて会話が展開できるようになる。

○進め方（例）：

1. 学習する会話の話題に合わせて、学習者とやり取りをし、経験を引き出す。
2. 会話に必要な語彙や表現を導入し、運用力を高める。
3. 場面や状況に合わせたロールプレイを実施し、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60%、平常点：40%

## 8) 作文

○目標：

- ・既習文型を使って、自分の意図を表現することができる。
- ・文の構成を意識して、ある程度まとまった文章が書ける。

○進め方（例）：

1. 作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。
3. 作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。
4. 作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）
5. 作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うときは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等）」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

## 9) 自律学習

○目標：自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。

○進め方：

1. 自己学習の重要性について理解を促し、講習期間中の学習計画の立案について、支援する。
2. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。
2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。
3. 学習が円滑に進むように適宜フォローを行う。

※ 実習開始後も自律学習が継続できるよう、厚生労働省ではWEBツールを開発している。入国後講習中に本WEBコンテンツの使用方法についての理解を促し、実習生が実習開始後も自己学習を継続して行えるよう、支援を行うことが望ましい

「にほんごをまなぼう～介護の技能実習生のための日本語習得への道～」

（厚生労働省補助金事業「平成 29 年度介護職種の技能実習生の日本語学習支援事業」公益社団法人日本介護福祉士会）

### 9-3. 「N4 下位者」向けプログラム

#### 1) 総合日本語

○目標：

1 か月目

- ・相手の質問に対して、(複文・重文を交えて)正しい返答ができる。

2 か月目

- ・待遇関係を意識したコミュニケーションをはかることができる。
- ・初級文型を組み合わせて話すことができる。

※ 上記目標に到達するために、2ヶ月間の講習では、初級後半の文法の学習ができる教材を選定し、徹底的な基礎固めを行うことが望ましい。

○進め方(例)：

- ・学習内容を復習するために、毎日宿題を課すことが望ましい。

1. 話題導入：学習する文型が使われる場面や状況がよく分かるような話題を導入する。
2. 語彙導入：トピックに合わせて、語彙を導入する。
3. 文型導入：文型の意味、使い方、接続を分かりやすく説明する。
4. ドリル練習：文型が正しく言えることを目指し、ドリル練習を行う。
5. 談話練習：コミュニケーションの場面で運用できるように談話練習を行う。

○評価：

宿題提出：10%、週アチーブ：30%、学期末テスト：50%、平常点：10%

※平常点は、授業中の取り組み状況などから判断するとよい。

#### 2) 聴解

○目標：

- ・日本語教師以外の発話に慣れる。
- ・必要な情報を得ることができる。

○進め方(例)：

1. 聴解内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. 聴解にあたって必要な語彙を指導する。
3. 聞くポイントの確認。何に注意して聞くのかを問題文を読んで確認する。
4. 音声教材等を活用した聴解(聴解に慣れないうちは、複数回聞かせてもよい。その際は、「1回目は大意をとる」、「2回目は問題文に合わせて細かい内容にまで注意して聞く」というように聞く目的を明示して聴解を実施するとよい。)
5. 答え合わせ
6. 聴解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

### 3) 読解

○目標：長文を最後まで読むことに慣れる。

○進め方（例）：

1. 内容に関する話題を導入として提供し、学習者の関心を高める。
2. 読解にあたって必要な語彙や表現を指導する。
3. 読解実施（実習生が個別に黙読し、問題を解く。制限時間を設けるとよい）
4. 講師による模範音読
5. 答え合わせ
6. 読解内容に関する意見交換を行う。

○評価：学期末テスト：90%、平常点：10%

### 4) 文字

○目標：N3 レベルの漢字の読み書きができ、日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できるようになる。

○進め方（例）：

- 1 日当たり 4 文字程度の学習ペースが望ましい。
  1. 前日に学習した漢字の小テストを行い、定着状況を確認する。
  2. 学習する漢字に関連した話題を提供する。
  3. それぞれの漢字の読み方、語彙、使用例を指導する。
  4. 必要に応じて例文を提示しながら、補足説明や語彙の拡大（反義語、類義語の紹介）を行う。

○評価：課ごとのテスト：50%、学期末テスト：50%

### 5) 介護の日本語

○目標：実習実施機関で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる。

○進め方（例）：

教材例<sup>\*6</sup>を用いて、1日当たり5～10個程度のことばを学習する。

1. 場面導入：学習する介護のことばが使用される場面を導入し、学習意欲を高める。
2. ことばの意味・発音確認：イラストや写真で理解を促しながら、ことばの意味と発音を確認する。発音は正しく発音できることと正しく聞き取りができるようになることを目指す。
3. 例文確認：実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを提示し、理解を深める。
4. 運用練習：実際の介護の現場を想定し、学習したことばを用いた会話

練習を行う。

5. 確認テスト：時限毎に学習内容が理解できているかを小テスト（5分程度で実施できる問題）で確認する。

○評価：毎時の確認テスト：50%、学期末テスト：50%

※6 教材例：「介護の日本語」のテキスト（厚生労働省補助金事業「平成29年度介護職種の技能実習生の日本語等学習支援事業」公益社団法人日本介護福祉士会）

## 6) 発音

○目標：実習実施機関において円滑なコミュニケーションがはかれるように、日本語らしい聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになる。

※ 「日本語らしい発音」を習得するためには、第一に「高低アクセント」と「拍（モーラ）感覚」の理解が不可欠である。講習会の初期段階でこの2点の練習を繰り返し行い、その後、文単位の発話指導（イントネーション等の指導）を行うことが望ましい。なお、発音練習は、1回の時間を長くして短期間で行うよりも、短い時間の練習を日々繰り返すことが効果的であるため、入国後講習においては、毎日の研修の最初の時間を発音練習の時間に当て、毎回10分程度の時間を使って指導することを推奨する。

○授業内容：

**1か月目**：拍、アクセントの練習

目標：日本語の高低アクセントと拍の感覚を理解し、聞きやすい発音で話せるようになる。

進め方（例）：

1. 音声を聞き取る。
2. 聞き取った音声をノートに書きとり、アクセントの上がり下がりを入力する。
3. 教師の指導のもと、アクセントの上がり下がりや拍のリズムを確認する。
4. 声に出して練習する。

**2か月目**：シャドーイング

目標：

- ・日常生活で耳にする会話の意味を理解し、プロミネンス（リズム・ポーズ）、イントネーションを習得する。
- ・聞いたままの音声を口頭で再現できるようになる。

進め方（例）：

1回目	①スクリプト配付、意味の把握 <sub>(1)</sub> （内容確認、語彙確認） ②CDを流して練習 *練習方法：シンクロ・リーディング、サイレント・シャドーイング
2・3	CDを流して練習

回目	*練習方法：スクリプト付シャドーイング、マンブリング、 プロソディー・シャドーイング
4回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング
5回目	CDを流して練習 *練習方法：プロソディー・シャドーイング、コンテンツ・シャドーイング

#### < 2回目の練習方法 >

クラスを二つにわけ、片方を「A役」、もう片方を「B役」として練習。

→ できたら、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（3回ほど）
- ②マンブリング（2回ほど）
- ③プロソディー・シャドーイング（2回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※2回目はある程度のスピードに慣れることを目標とするため、「発音面」はあまり重視しなくてよい。

#### < 3回目の練習方法 >

クラスを二つにわけ、片方を「A役」、もう片方を「B役」として練習。

→ できたら、役割を反対にして練習する。

- ①スクリプト付シャドーイング（2回ほど）
- ②プロソディー・シャドーイング（4回ほど）

※回数は目安なので、実習生の様子を見ながら適宜調整するとよい。

※3回目は「発音面：イントネーション・プロミネンス・ポーズ等」に重きをおいて練習する。

○評価：中間テスト（1か月目の学習終了時に実施）：50%、期末テスト：50%

### 【注意点・用語説明】

#### (1) 意味の把握

配付されたスクリプトを見て、会話の場面や内容、言葉の意味を確認する。

#### (2) シンクロ・リーディング

スクリプトを見ながら音声を聞いて目で追う。この時点では何も話さず、聞くことと文字で確認することに重点を置く。スピードの速い箇所や間があるところ、声が大きくなったり高くなったりするところ、長音や促音など、注意する点を把握し確認しながら聞く。

#### (3) サイレント・シャドーイング

音声を聞きながら、声には出さずに頭の中だけで復唱する。

(スピードの速い会話や言い慣れない表現などが出てくる会話を練習することに適した練習法)

#### (4) スクリプト付きシャドーイング

スクリプトを見ながら音声を聞き、すぐ後を復唱する。実際に正しくすらすら話せたか確認しながら行う。ナチュラルスピードで言うことが目的である。口ならしの練習と行って行う。

#### (5) マンブリング

スクリプトを見ずにブツブツつぶやきながら復唱する。つぶやくように言うため、大きく口を動かす必要がなく、言いにくい文も復唱しやすくなる。

#### (6) プロソディー・シャドーイング

スクリプトを見ないで音声素材と同じように発音することを目指してシャドーイングをする。

同じスピード、同じイントネーション、声の強弱（プロミネンス）や間（ポーズ）にも徹底的に忠実に練習する。この練習の目標は流暢さなので、会話の内容に意識がいかななくてもよい。

#### (7) コンテンツ・シャドーイング

スクリプトを見ずに、意味内容を意識しながらシャドーイングをする。

### 7) 会話

#### ○目標：

- ・身近な場面や話題においてコミュニケーションをはかることができる
- ・実践的な場面に即した語彙・表現を習得し日常生活に運用できる（病院、駅構内など）

#### ○進め方（例）：

1. 学習内容に関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. 会話に必要な語彙や表現を導入する。
3. 場面や状況に合わせた会話を作成し、発表する。会話内容について、講師がフィードバックを行う。

○評価：学期末テスト：60%、平常点：40%

### 8) 作文

○目標：既習文型を使って、段落を意識しながら自分の身の回りのことについて記述できるようになる。

#### ○進め方（例）：

1. 作文のテーマに関する話題を導入し、学習者の関心を高める。
2. モデル作文を提示し、文章の構成の仕方や必要な表現を確認する。
3. 作文のテーマに関して、グループで話し合いを行い、書く内容について考察を深める。
4. 作文を書く（授業時間内で時間が足りなくなった場合は、宿題とする）
5. 作文発表、意見交換（実習生同士で作文を交換して読み合ったり、クラスで数名に発表させたりして、意見交換を行う。意見交換を行うと



きは、「作文のよかった点（構成、表現、分かりやすさ等）」や「作文をよりよくするためのアドバイス」を述べるように指導するとよい。）

○評価：毎回の課題

## 9) 自律学習

○目標：自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画をたて、計画に沿って学習を進め、振り返りができるようになる。

○進め方：

1. 自己学習の重要性について理解を促し、講習期間中の学習計画の立案について、支援する。
2. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。
2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。
3. 学習が円滑に進むように適宜フォローを行う。

※ 実習開始後も自律学習が継続できるよう、厚生労働省ではWEBツールを開発している。入国後講習中に本WEBコンテンツの使用方法についての理解を促し、実習生が実習開始後も自己学習を継続して行えるよう、支援を行うことが望ましい

「にほんごをまなぼう～介護の技能実習生のための日本語習得への道～」

（厚生労働省補助金事業「平成 29 年度介護職種の技能実習生の日本語学習支援事業」公益社団法人日本介護福祉士会）

## &lt;報告書サンプル&gt;

御中

年 月 日

入国後講習報告書

1. 研修の名称 入国後講習における日本語学習
2. 研修の概要
- ①受講者：  
 (ID) \_\_\_\_\_  
 (国籍) \_\_\_\_\_  
 (実習生名) \_\_\_\_\_
- ②研修期間： 年 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )
- ③研修場所：

## 3. 研修の実施結果 (クラス評価)

科目別評価

(S (90%以上) &gt; A (80~89%) &gt; B (70~79%) &gt; C (60~69%) &gt; D (60%未満))

総合日本語	聴解	読解	文字	介護の日本語	発音	会話	作文

## 4. レベルチェックテスト結果

	筆記試験			口頭試験
	言語知識 (文字・語彙・文法)	読解	聴解	
研修開始時				
研修終了時				

## [コメント]

研修開始時	
研修終了時	
今後の課題	

報告者